

顔面筋セルフケアメソッド・機能評価法の研究開発

体育系 特任助教 岡本 るみ子

MAとSRにより、表情表出機能不全者は精神障害リスクが高い(Davies et al., 2016)と報告された。これを受け、2019年、米国・国立精神衛生研究所(NIMH)は、研究領域基準(RDoC※)の構成要素「認知システム」領域に「顔の表情表出異常」を新たな研究対象として追加。

※RDoC:精神障害の理解を深めるために、従来の診断カテゴリに依存せず、神経科学や行動科学に基づいた新しい研究アプローチ。

今後、適切な表情表出が精神健康のバロメーターの一つとなり得る可能性。

精神健康のための顔面筋セルフケアメソッドの研究開発

- ・SRにより、顔面筋の運動による抑うつ、気分の改善やストレス軽減効果を報告(Okamoto et al., 2021)。
- ・RCTにより、地域在住健常高齢者の精神健康、気分、表情、舌圧の改善に顔の運動が有用であることを示唆(岡本・水上, 2018)。
- ・RCTにより、顔の運動がパーキンソン病患者の気分、表情を改善したことを報告(岡本・足立・水上, 2019)。
- ・パイロットスタディにより、顔の運動が産後女性の精神健康、表情に有用であった可能性(Okamoto et al., 2024)。

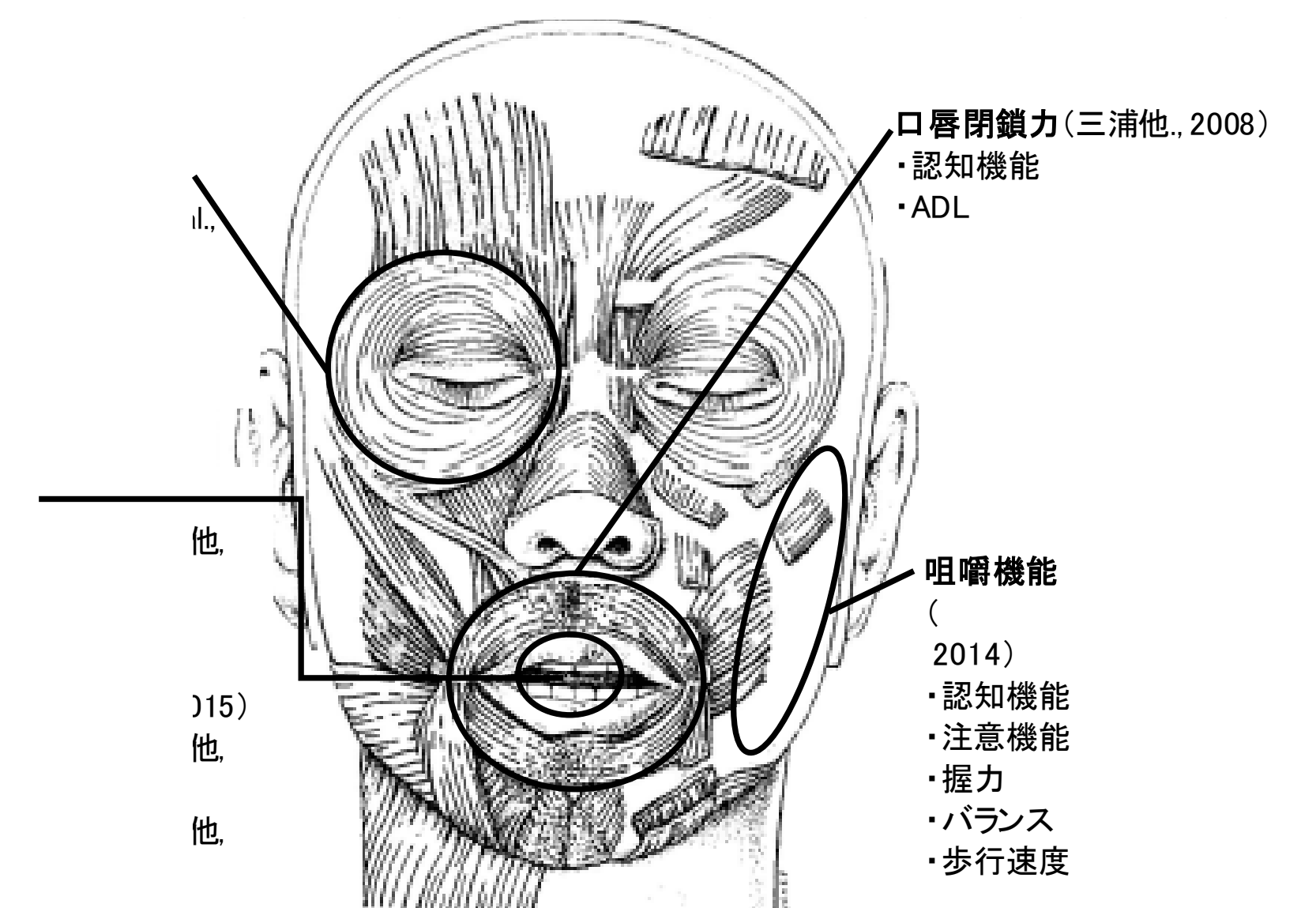
顔面筋機能評価法の研究開発

研究①

地域在住健常高齢者と若年者(大学生)との顔面筋機能の比較並びに関連因子の検討

結果

- ・安静時、高齢群は多くの筋で有意な緊張を示した。
- ・加齢により前頭筋、皺眉筋、眼輪筋、上唇鼻翼挙筋、上唇挙筋、大頬骨筋、口角挙筋、口輪筋の8被験筋の筋活動量が低下していた。



評価法	顔面神経麻痺患者	健常高齢者	本研究にて開発
		頤口腔機能	
柳原法		咬合の状態、アイヒナー分類等による臼歯部の咬合状態の評価等	
Sunnybrook法		咀嚼能力評価: 評価スケールによる質問紙調査、咀嚼機能測定等	
the Facial Nerve Grading System 2.0		舌機能評価: 舌圧測定、オーラルディアドコネシスによる舌運動評価等	
eFACE		嚥下機能評価: 評価スケールによる質問紙調査、反復嚥下嚥下テスト等	
		口腔乾燥評価: ガム咀嚼などの刺激唾液の検査、唾液湿度検査	

今後の研究予定

各年代・各人種による顔面筋機能の比較・検討
AIによる顔面筋機能評価法(アプリ)の研究開発
各年代に最適な顔面筋セルフケアメソッドの研究開発